

## 「研究のあゆみ」によせて

平成 22 年度より始まった柏市幼児共同研究「こころ からだ はずむ 柏っ子」は、今年度で 8 年目を迎えました。研究は、「みんなで運動遊びが大好きな子どもを育てよう」というテーマを掲げ、柏市内の全私立幼稚園、公私立保育園のご協力のもとで進められてきました。

この研究は、二つの大きな柱の下で進められてきています。その一つは、各園それぞれの特色や環境を生かした「幼児の運動遊びの環境づくり」を探求することです。ここでは、どのような保育環境が幼児の運動遊びに対する意欲を引き出すことができるのかについて、運動遊びの環境設定に関する実践的な研究が行われてきています。各園での「幼児の運動遊びの環境づくり」への取り組みは、毎年度末にまとめられる「研究のあゆみ」にそれぞれの実践が報告されています。そこには、幼児と環境との間でより良い相互作用が生じるための工夫や、幼児が意欲的に運動遊びに取り組むことができ、運動遊びが大好きになるようなアイデアやヒントが数多く紹介されてきています。それぞれの実践には、意欲的に運動遊びに挑戦するように育て欲しいという、先生方の幼児たちへの思いが、たくさん込められています。

また、共同研究では、「子どもたちの運動能力と生活状況の把握」を目的として、園児たちの運動能力測定、および、幼稚園や保育園における運動遊びを中心とした生活状況の調査による実態把握も行ってきました。その中で、幼児の運動能力と日常生活との関係について、いくつか明らかになったことがあります。それらは、園で十分に、そして、活発に運動遊びをする幼児は、そうでない幼児よりも運動能力に高い傾向がみられる、ということです。また、多くの友達と関わって運動遊びをする幼児、運動遊びを好んで行う幼児にも運動能力に同じ傾向がみられました。これらから、運動能力とは、多様な運動遊びの経験をした、いわゆる学習の結果を現すものであると考えられます。運動能力は、高ければ高いほどよいというものではありません。しかし、発育の著しい幼児期には、適度な運動(遊び)経験によって、この時期にふさわしい運動能力を発達させておくことは必要不可欠であると考えられます。幼児の運動遊び経験には、運動遊びに対する意識や態度が大きく関わっているといわれています。このことから、幼児の運動遊びでは、幼児と環境との間で望ましい相互作用が生じ、それが適切な運動経験に繋がる環境、言い換えれば、運動遊びに対する肯定的な態度が形成され、運動遊びが好きになるような環境を整えていくことが、重要であると考えられます。

一方、園生活における幼児の運動遊びの状況には、変化がみられます。特に、戸外での運動遊びの状況について、戸外で身体を活発に動かす時間や自由な時間に戸外で遊ぶことを好む幼児が、全体的に少しずつ増加する傾向にあります。これらは、日々の保育の中で行われている環境設定の工夫による幼児の意識の変化、また、先生方が戸外で体を動かして遊ぶ時間の確保を意識的に実践されている結果の表れである、と推察することができるのではかと思えます。

共同研究における各園での取り組みの成果は、日々の実践ではなかなか見えにくい側面があると思います。しかし、確実に、実践の成果は蓄積され、幼児たちの日々の生活に反映されてきていると思います。日々の実践が、今後も継続され、幼児の健やかな育ちにつながるよう願っております。

最後になりましたが、共同研究推進委員会の先生方を中心として、各園の先生方のご協力のもと、さらに本研究の推進と充実が図られることを願っております。